

東和作戦会議 会報 No.50

令和7年11月15日発行
一般社団法人 東和作戦会議



〒028-0114
岩手県花巻市東和町土沢 5 区 372
電話:0198-29-6500 FAX:
0198-29-6501
メール:
omoshiro@leaf.ocn.ne.jp
ホームページ: <http://touwa-noutabi.com/>
広報担当 多田悦子

実りの秋に集う人々

9月20日(土)21日(日)

豊穡を祝う土沢まつりが賑やかに行われました。初日はあいにくの雨でしたが、初となる花巻市消防団の「纏い振り」が土沢商店街を練り歩き、火の用心と団員募集を呼びかけました。

祭り二日目は晴れ、待ち望んでいた人々が一斉に繰り出し賑わいました。
東和作戦会議でも、二日間研究所を開放し、訪れた皆さんと楽しく交流しました。



土澤アート・クラフトフェア 2025 秋

10月12日(日)13日(月・祝)

雨二モマケズ人出9万人超え！(主催者発表)

この時期、各地でイベントが盛んにおこなわれる中、秋の定番イベントとなった土澤アートクラフトフェアには、今回も九州から北海道まで、多くの方がここ土沢を訪れました。東和作戦会議では、おもてなしの心で、研究所をお休み処として開放し、訪れた方々と心の触れ合いを楽しみました。谷内伝承館の木工品や米粉パンの販売。喫茶コーナーでは、イチジクの黒砂糖煮や甘酒、ジュース類が好評。県立大学の学生6名が助っ人として参加。このイベントの感想などをアンケート調査してくれました。この他にも但野さん、順子さんご夫妻他、お抹茶席には、諏訪さん、小川さん、中西さんにもお手伝いいただきました。



抹茶席では、玉川屋の和菓子三種類を用意。抹茶体験も行いました



「ジュースですね？」お客様の後ろで、かいがいしく働く作戦会議スタッフ



「米粉パン、喫茶コーナーご利用ください」「木工品のおもちゃどうですか？」

移住定住・空き家相談状況 令和7年度上半期報告(4月～9月)

	実相談者数 (件数)	移住者数	うち空き家バ ンク利用	持ち家を空き 家バンクに登録 した件数
4月～9月	58人 (144件)	8世帯	5世帯	6件

今年は、空き家バンクやそれ以外でも、東和に移住を希望する方が多く、物件の在庫がほとんど無い状況です。空き家をお持ちの方で、「どうにかしたい」とお考えの方は、家が傷まないうちの早めのご相談をお待ちしております。(大石)

視察来訪の報告

「大迫地区にも移住相談拠点を！」



10月26日 東和おもしろ作戦研究所に大迫未来会議の鈴木さんと佐々木さんが来訪。市の担当として、定住推進課から和田さん、大迫総合支所から岩崎さんがご一緒くださいました。当社からは、理事の菅野と大石が対応しました。視察目的は、大迫地区にも移住相談拠点を開設したいので、先行事例を研修したいとの事。

当社の概要や、市移住相談事業受託の経緯と現状を説明の後、相互に質疑や具体例を紹介し合い、早期の相談拠点実現に向けたサポートを約束しました。

大迫未来会議のみなさんの反応は

- ・拠点開設に向けた道筋が見えてきた。
- ・移住者及び自分たちのためにも、生業とできる仕事の選択肢を示せるようになりたい。
例：会社員のような常時雇用でなくとも、集落営農事務や草刈り作業の請け負いドローンなどのスマート農業機械も含めたオペレーターなど、探せばある。
運営団体の核となるメンバーの合意形成が必要。
それぞれがまだ自分の事で精一杯で、統一目標や優先順位さえ未確定と思った。
以上のような感想でした。(菅野)



トピックス

とうわ野鳥の会自然講演会「岩手のツキノワグマは今・・・」

2025年10月19日13:30 東和コミュニティセンター多目的ホール



年に一度開催している東和野鳥の会の自然講演会が行われました。

今回の講師は北上市在住で、野生動物写真家の佐藤嘉宏さん。佐藤さんは、30年にわたりクマの生息地に通い、写真を撮り続け、クマの生態にも精通している方です。

クマの出没情報や、人身被害の報道が連日テレビから流れてくる昨今、参加者過去最高の150名と関心の高さが伺われました。

講演の中で、「共有したいこと」について佐藤さんは

- ・クマは食べ物で動いている。
- ・クマを正しく知り、過度な恐怖心を持たず適切な行動を取ることが大事。
- ・人里周辺で生息するクマの対策は速やかに行うことが必要。何もしないとさらに大変なことになると話しました。

講演会には、花巻市猟友会会長、東和町鳥獣保護委員、日本野鳥の会盛岡支部事務局長、日本野鳥の会北上支部の方、熊森研究会盛岡支部の方々など幅広い分野で活躍されている皆さんが参加されていて、講演終了後の質疑では、各分野から貴重な意見、提言、体験談などが語られました。

講演会取材(多田)



トピックス



「赤そば」のお花見会開催！！

今年「たてまち地域づくり協議会」で取り組んだ

赤そばの栽培について取材(薄衣代表理事)

たてまち地域づくり協議会では、昨年より地域の特産品開発の一環として「赤そば」の栽培を開始しています。

本年「赤そば」は順調に生育し、仲秋の圃場は一面見事なルビー色に染まり素晴らしい景色となりました。10月12日には情報を聞

きつけた県内の見学者も含めて大勢の地域住民の参加の中、盛大にお花見会が行われたとのこと。道路の両脇はピンク色に覆われているので「ピンクロード」と名付けました。来年は、もっと面積を増やして地域内外の大勢の皆さんにおいでを頂き観光資源にも結びつけたいと協議会の皆さんは意気込んでいます。





県立大学の学生の方々と

10月16日 役重理事が6人の学生の皆さんを

伴い「土澤アート・クラフトフェア」を訪れ、作戦会議の活動体験と、イベントに関する調査を行いました。手始めに、実際に研究所内の受付や、お客様の呼び込み、喫茶コーナー・お抹茶席のお手伝いから。(ようするに助っ人ですね)その後、街頭に出て、イベントや東和に関するアンケート調査を行いました。



学生の皆さんの感想です



石戸谷頼信さん

- ・東和農旅の活動店舗の方々が丁寧にお手伝いの内容を教えてくれたり、東和町の方同士でなく、初対面のお客さんにも気さくに接していて、東和町の人達の温かさを感じた。
- ・活動店舗内だけでなく、イベント全体が誰でも親しく会話するような和やかな雰囲気、どこにいても居心地が良かった。
- ・インタビューで東和町の印象を聞いて、「静かな熱意をもった人達が多い」や、「大きなイベントを開催することで全国から集客していることがすごい」など、東和町の外からも良い印象を持たれていて、とても魅力的な町だと感じた。

大石南花さん

- ・インタビューを通して、地元から県外、子供から大人まで様々な人が参加していて活気のあるイベントだと感じた。
- ・インタビューでは最初はとても緊張し、断られることも多かったため、大変だった。
- ・店舗同士のつながりも広がり、作家さんも楽しめるいいイベントだと感じた。
- ・お店の手伝いでは、お客さんとの交流ができ、新しい出会いも作ることができたため、楽しく業務を行うことができた。
- ・土沢のレトロで自然豊かな街で、地域の方の温かみに触れることができてとても楽しいイベントだった。



佐藤由杜さん

・はじめてこの規模のイベントに参加したがまちの人々が温かく、安心感を感じることができた。実際に営業の手伝いをしてみていつもどこかで「会話」がうまれていて楽しそうに話している人を見て温かさを感じるとともに人々のつながりが強いコミュニティだなと感じた。ほかの人もいきいきと活動している様子を見て、本気で楽しんで盛り上げようとしている、自分自身が前向きに取り組む事の大事さを学んだ。

・インタビューをはじめておこなったがとても緊張した。どんな人なら答えてくれるのか考えながら声をかけることは難しかった。インタビューでは東和町にいい印象を持つ人も多かった。また、お店の人にもインタビューをしたがこの東和町のイベントはこのようなイベントに参加している人にとっては憧れの舞台であるという話をききすごいイベントなんだと感じた。

・今回このアートクラフトフェアに参加してみて、東和町の地域活性化に対する思いと東和町の人々の温かさをもっと体感することができた。こういったイベントを通じてさまざまひとつながり、それをさらに広げて老若男女問わず大きく温かいコミュニティがつけられていくといいなと思った。



小原愛央さん

・今回のフィールドワークを通して、このイベントでの賑わいや地域のつながりを感じ、東和町の印象が変わった。地域で協力することや参加者の意見を聞いて改善していくことの大切さがわかった。

・土澤アートクラフトフェアでは、地元の生産物を使った商品が売られていたり、土沢の街を会場として歩くことができたりなど、東和町の魅力が感じられるだけではなく、普段触れる機会のない県内外の作品にも出会うことができた。

・実際にインタビューをしてみて、地域の一体感を感じられるという感想や、普段見てもらえない作品を見てもらえるという意見を聞いて、他のイベントにはなかなか無い魅力があると感じた。

・積極的に話しかけに行くことの大切さが分かったので次のフィールドワークなどに活かしていきたい。



芳賀莉ノ杏さん

・今回初めて正式なFWというものに参加してみても楽しかった。今までボランティアなどで地域の方と触れ合うということは小さい頃から行ってきたが、訪れた方々にインタビューなど今まで経験してこなかったことも初めて体験できて1歩成長できた気がした。

・実際にインタビューをしてみると断られることも多々あったが、めげずにどんどん進んで声をかけることが大切だと感じた。

・お店を手伝った際も、お店の方もお客さんもたくさん話しかけてくれて会話のきっかけを作っていたので、次からは自分で話題を作って話を広げていけるようになりたい。

・土澤アートクラフトはまた行きたいと思えるようなイベントだったので、このようなイベントが増えればより地域活性化に繋がるのではないかと考える。